

ジビエペットフード事業の現状と展望



一般社団法人

ジビエペットフード協会
Gibier Pet food Association

高橋 潔

令和元年 10月 21日



設立 平成 28 年 8 月

機能 日本最大のジビエ流通市場

食肉処理施設 \longleftrightarrow Gibier Marché レストラン

- 加盟レストラン数：1025 店舗
ミシュラン店 50 店含む
- 処理施設：40ヶ所
- 注文数：5400 件/年
- 取扱動物：60 種類
- 取り扱い量：約 50 万トン

一部珍しい養殖も取り扱います。

なぜレストランは鹿肉を使わないか？ なぜ食肉処理施設は赤字になるのか？

低価格性

牛、豚、鶏などの屠畜で安い肉がたくさんある

低需要

- 味・価格が魅力的でない
- 肉質が安定しない
- 仕入れが安定しない
- 調理が難しい

低生産性

- 肉の歩留まりが悪い
- 不要部位が多い

ジビエペット利用の現状と危惧

現状

- ペットフード会社の買い付け価格が安く、食肉処理施設の利益につながらない
- 多くの食肉処理施設がペットフードマーケットに参入
- 衛生基準や製造方法などがあいまい

将来への危惧

- 過当な価格競争、レッドオーシャン化
- 粗悪品の流通
- 食中毒・死亡事故の発生
- ジビエに対する社会的批判
- ジビエ業界全体の弱体化

ジビエペットフード協会 (GPA) とは



一般社団法人

ジビエペットフード協会
Gibier Pet food Association

共同戦線で業界を守り、経営効率化で勝ち残っていく！

GPA の提案

- 1 食肉処理施設をペットフードメーカーに変身！
- 2 安心できる品質基準とルール作り
- 3 価格・ブランド戦略で、安定した収益を！

GPA の処理施設サポートの具体案

販売

GPA が広告・営業・受注を担い、処理施設の業務効率を向上

商品

GPA 中心の、スピーディーな商品開発、品質の改善を実施

経営

夏は食肉、冬はペットフードに注力し、すべての部位を利用。収益をアップ。また、資材の共同購入を予定

相互扶助

天災・人災による損失の一部を GPA がサポート & カバー

卸売

ペットフード会社の OEM を受注し、卸売り部門を強化

GPAの現状と目標

販売形態と提携

- B to B
全国獣医師会（57支部）
ペット関連協会（15社団法人）
ドッグカフェ（200店舗）等
- B to C
GPAサイトから直販

目標

- 連携処理施設：40カ所
- 注文数：10000～20000件/年
- 取り扱い量：30万トン